

2010 年度総会の報告 I

佐野由輝(大網白里町)

開催日：2010年2月11日(木)

場 所：千葉県立中央博物館

出席者数：76名、委任者数：164名

特別企画として、午前中央博物館のバックヤードツアー(動物・地学・植物)と生態園ツアーが行われた。まず、30名が2グループに別れ、博物館の1階部分にある地学と動物の収蔵庫を見学した。地学の収蔵庫は加藤久佳先生、動物(昆虫)の収蔵庫は斉藤明子先生に案内していただいた。地学の収蔵庫には、大きな地層の剥ぎとり標本、火山灰のサンプル、ボーリングコア、鉱物標本、化石などが、動物の収蔵庫には、様々の種類の昆虫が納められていた。千葉県はもとより、国際的な視野に立つての収集物も多い。開発や時代の進展の中で、貴重な資料を収集し整理保存していくことの意味がよくわかった。この後、10名は植物の収蔵庫に残り、約40名は生態園のツアーを楽しんだ。

午後1時から、千葉県立中央博物館講堂において、同博物館房総の山のフィールド・ミュージアム上席研究員の尾崎煙雄氏から、「房総の山のフィールド・ミュージアム」と題して、ご講演いただいた。

フィールド・ミュージアムとは、自然そのものが博物館であり展示物という発想で誕生したもので、地域住民とのふれあいがあること、川下から川上への人の流れができること、研究員が身近な存在になることなど、屋内の博物館とは違った長所があることが分かった。

午後2時から総会が始まり、まずは、小西代表から開会の挨拶があった後、山口正明さん(船橋市)を議長に、井上智史さん(千葉市)と近藤維久子さん(佐倉市)を書記に選出し、議事が進められた。

2009年度行事報告では、昭和の森観察会、東葛自然観察会、SSN等の自然観察会、千葉県や千葉市等官庁からの委託事業、宝酒造等民間団体からの依頼による観察会、25周年記念行事、研修事業等が多くの参加者のもと、盛況に行われたことが報告された。2009年度決算報告では、収入、支出ともほぼ予算の範囲に収まったことが報告された。打ち合わせ会議費のみが大幅に予算オーバーしたものの、その理由は、協議会の活動が活発となった証であり、必要経費であったとの説明があった。続いて、会計監査報告があった後、2009年度行事報告及び決算報告が了承された。

10分間の休憩を挟み、2010年度行事計画案が提案された。昭和の森関係、東葛関係、官庁関係、民間団体関係、SSN関係、研修関係について、2010年度も盛りだくさんの企画が提案され、了承前ながら、行事が実施されることが前提の発言も飛び出した。2010年予算案では、委託事業等額が見込めないもの、25周年記念行事が終了したことを除き、2009年度決算を踏まえた案が提案され、2010年度行事計画及び予算案が了承された。

最後に、東葛自然観察会に対する支援額を増額する内規改正の報告が行われた後、役員に木下順次さん(千葉市)を増員することが提案され、了承された。年々、質量ともに活発化している協議会活動が、役員に木下さんが加わることにより、さらに充実してくるものと期待して、2010年度総会が終了した。

総会終了後は、懇親会が行われ、リラックスした雰囲気の中、時間がたつのも忘れ、指導員どうしの交流を深めることができた。